

令和4年度 自己評価項目

1. 学校の教育目標

本校の教育理念に基づき、きめ細かい指導のもと社会人としての資質の向上と幅広く教養と常識を身に付けたバランス感覚のある人材輩出を目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)教育(教職員として)の質の向上
- (2)人間力の育成・演習・実践の強化
- (3)地域の一員・住民であることを意識し目的に合わせた地域力の活用

3. 自己評価項目の達成及び取組状況

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

令和4年度

(1) 教育理念・教育目標

	評価項目	自己評価
1	学校の教育理念・目的・育成人材像は明文化されているか。	4
2	学生・教職員に対して、学校の教育理念等の周知徹底が図られているか。	4
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4
5	学外(保護者含)に対して、学校の教育理念等が公開されているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	令和4年度は保護者出席数を制限したうえで入学式と同日に保護者会を開催し、当校の教育理念・教育目標等及び各学科の勉強内容等を直接保護者の方に伝えることができた。また、学生には学生ハンドブックにより伝えるとともにが学校のルールも理解させており、ホームページや学校案内を通じて教育理念、教育目標等は公開している。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己評価
1	学校の目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4
4	理事会が定期的で開催されているか。	4
5	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか。	4
6	組織の構成員のそれぞれの職務分掌が文書化されているか。	4
7	人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4
8	賃金制度・昇進・昇格制度は文書化されているか。	4
9	個人情報保護規程が文書化されているか。	4
10	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4
11	教職員の健康診断がされているか。	4
12	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
13	職業実践専門課程専攻分野における企業・団体等と連携した事業及び教員の研修はできているか	4
14	情報システム化等により業務の効率化が図られているか	3
取組と課題 今後の改善方策	働き方改革等を受け、来年度には就業規則を改定する予定である。学校内職員間の連絡システムは構築できつつあるが、将来のパソコンを利用した授業の推進等さらなるシステム構築を進めていく。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確になされているか。	4
3	カリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5	業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4
6	産学連携によるインターンシップが体系的に位置づけられているか。	4
7	学生・保護者等によるアンケートにより授業評価の実施・評価体制があるか。	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか。	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4
15	教育内容の改善を図るため教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4
<p>取組と課題 今後の改善方策</p>		<p>令和4年度は前年度課題であった非常勤講師との連携を年度初めに密に打ち合わせを行い、学習目的等を確認するようにした。教員の研修についてはコロナ禍にあり対面での研修は行えなかったが、職業実践に関するWEB研修を受けることができた。国際化・デジタル化における教員研修を強化していく予定である。卒業生・保護者に対するアンケートは昨年に引き続き行っている。</p>

(4) 学修成果

	評価項目	自己評価
1	就職率の向上が図られているか。	4
2	資格取得率の向上・資格に関する目標が図られているか。	4
3	退学率の低減が図られているか。	4
4	卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか。	3
<p>取組と課題 今後の改善方策</p>		<p>就職は昨年より1ポイント上がり99%の就職率であった。また、観光ビジネスコース(留学生)が大手のホテルに就職することができた。資格については各資格で目標を決め指導を行い日商簿記3級で合格率100%を達成することができた。卒業生に関しては来年度以降OB会を開催する予定である。</p>

(5) 学生支援

	評価項目	自己評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか。	4
3	学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。	4
4	学校案内等には選抜方法が明示されているか。	4
5	学校説明会等による情報提供は行われているか。	4
6	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか。	4
7	入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4
8	学生相談に関する体制(面談)は整備されているか。	4
9	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4
10	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4
11	学生の生活環境への支援は行われているか。	4
12	保護者・保証人と適切に連携しているか。	4
13	卒業生への支援体制はあるか。	3
14	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4
15	ハローワーク等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3
16	退学率の低減・中途退学の原因・傾向等を把握しているか	3
取組と課題 今後の改善方策		コロナによる出席停止の制度、濃厚接触者の制度も学内で周知され、クラス内でコロナ罹患者がでてでも混乱なく授業を勧められた。クラスで罹患者が相当程度でた場合はクラス閉鎖を行った。キャリア教育についてはいまだ行っておらず来年度以降の課題である。

(6) 教育環境

	評価項目	自己評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか。	4
3	防災に対する体制は整備されているか。	4
4	学内の整理整頓清掃に関する定期的なチェックが行われているか	4
取組と課題 今後の改善方策		法令に従って必要な施設設備の点検・修理修繕等行っている。また火災避難訓練や地震防災訓練などを通じて防災意識を高めている。また、毎日の清掃と教員による確認、定期的に大掃除も実施している。

(7) 学生募集

	評価項目	自己評価
1	高等学校等に対する情報提供等の取組を行っているか。	3
2	学生募集活動は、適正に行われているか。	4
3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	4
取組と課題 今後の改善方策		コロナ禍による規制も緩和され高校訪問など受け入れていただけできるようになってきた。今後は5類感染症移行ということもあり、訪問の機会を増やし引き続き情報提供を行っていく。また、新たな情報提供ツールとしてTikTok等の運用を開始した。高校生のニーズを引き出せるように運用していきたい。

(8) 財務

	評価項目	自己評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3	財務について会計監査が妥当に行われているか。	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	少子化による日本人学生の減少傾向は令和4年度も同様である。今後は留学生の入学数増加を見込んだ定員増加や、学費の値上げ等を視野に入れることにより財務基盤は安定している。	

(9) 法令遵守

	評価項目	自己評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4	自己評価結果を公開しているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	自己評価の公開は継続して行われている。学校として適正な運営を常に心掛け、評価項目の適正維持を図っている。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己評価
1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
2	社会的活動(地域活動・ボランティア等)を評価しているか。	4
3	地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	令和4年度も引き続きボランティアは学生に広く告知しており、地域研究の企業訪問を通じ、企業のイベント等に参加・協力を行った。また、地域研究においてはSDGSをテーマに環境保護団体等も参加する発表会を行った。公開講座はいまだできておらず来年度以降の課題である。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己評価
1	受入れ・派遣、在籍管理等について適切な手続き等がとられているか。	4
2	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されている	4
3	国際交流が行われているか	4
取組と課題 今後の改善方策	令和4年度は今までの留学生と日本人学生の交流を通じ、日本語能力の上達・日本文化への理解・日本のビジネスルールへの対応等を通じ留学生の就職状況は良かったといえる。来年度以降も交流等を続け実績を蓄積したい。	

4. 本年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

令和4年度は職業実践専門課程認可から3年経過し、その成果がではじめた年度であった。特に留学生の就職に関しては日本人学生との交流とともに、職業実践専門課程の実践教育が活きたと思われる。来年度以降は学校全体でのデジタル化への取組、卒業生へのフォロー、留学生増加に伴う国際交流の強化を行っていく。